

みんなが地域で自分らしく暮らせる 共生のまちづくりを目指して

～西宮市社協 地域共生館「ふれぼの」の取り組み～

西宮市社協では、第8次地域福祉推進計画の中で「みんなで創り出す 共生の『まちづくり』」を福祉目標に定め、障害などがあっても、社会的役割があり、自分らしい暮らしができる社会づくりを目指している。今回は、そのモデルとして社協が新たに取り組む、「地域共生館ふれぼの(以下「ふれぼの」)」について紹介したい。

住民や当事者らと共に創る拠点

社協では、これまで小地域での交流の場づくりや、重度障害者の地域活動拠点「青葉園」の実践を軸にしながら障害者の社会参加の支援を積極的に推進してきた。昨今、子どもの貧困や社会から孤立している子育て中の親や若者が増える中、第8次計画では、さまざまな人がつながり、社会的役割やSOSの発見にもなる場づくりの重要性等を提起している。そこで、障害者や高齢者といった対象別ではなく、地域住民や当事者が混ざり合える場として“ふれぼの”は開館した。

建設にあたり、社協が意識したのは「地域に愛される場所にしたい」ということであった。住民や学生、専門職とも協議を重ね、構想段階から一緒に考えることで、社協の管理する建物ではなく、みんなの居場所として愛着を持ってもらえるようにした。

本格カフェオープンに向けたプレ実施の様子

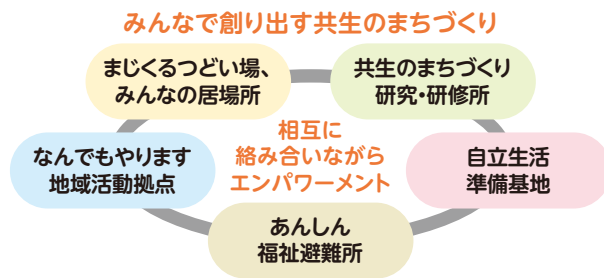


地域共生館(ふれぼの)
西宮市中前田町1-23
TEL 0798-61-1408

みんなが「つどう場」を市内に広げる

“ふれぼの”の建設前には「夕涼み会」「春の宴」等のイベントを建設予定地で開催した。近隣の住民と協力して運営するとともに、青葉園もブースを出展し、住民との交流の場にもなった。この6月には、重度障害者やボランティアと一緒に創り出す地域のつどい場「ふれぼのカフェ」も本格オープンする。カフェをきっかけに、これまで関わりのなかった住民を呼び込み、新しいつながりづくりにつなげていく。

今後、社協では、“ふれぼの”で得たヒントが市内全域で生かされ、地域でつながりが生まれていくことを目指している。「『ふれぼの』は共生に向けた『つどい場』のモデルの一つ。拠点にこだわらず、それぞれの地域にあった場づくりを進めたい」と市社協共生のまちづくり課の音川礼子氏は力強く語る。可能性に溢れる“ふれぼの”の今後を期待せずにはいられない。



取材を終えて

住民公募が多かった「ふれあいほのぼの」からつけたという名前の通り、人との触れ合いが身近に感じられる場所でした。

取材中、コーヒーを入れてくださった皆さんの、とても生き生きとされていた顔が印象に残りました。“ふれぼの”は役割づくりの場にもなっているのだと感じました。

理事長から 西宮市社会福祉協議会 理事長 北川 悦久

西宮市社協では、第8次計画の地域福祉目標として「みんなで創り出す 共生の『まちづくり』」を掲げており、その2年目となる今春4月に「地域共生館 ふれぼの」を開館しました。共生のまちづくりに向けたモデル的な拠点として、地域住民、当事者、専門機関、行政等、さまざまな人や団体を巻き込んだ活動を、少しずつですが展開し始めています。

「共生」とは、人と人がお互いの存在を尊重し合い、対等な関係を築きながら、一人一人が自分の役割と居場所をもって、共に生きていくことです。

本当の「共生社会」の実現に向けて、この「地域共生館 ふれぼの」での活動実践を全市域に広げていくことを目指して、これからも積極的に活動してまいります。

